

北海道浮魚ニュース

平成 30 (2018) 年度 15 号

2018 年 8 月 27 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎スルメイカ漁場一斉調査 (道南太平洋海域)

8 月 20 日から 24 日にかけて、浦河沖から下北半島東沖にかけての道南太平洋、及び函館沖で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・平均分布密度は昨年および過去 5 年平均を下回った。
- ・魚体サイズは昨年より大きく、過去 5 年平均と同程度であった。
- ・最も漁獲が多かったのは函館沖であった。

1. 漁獲調査結果と水温分布 (図 1)

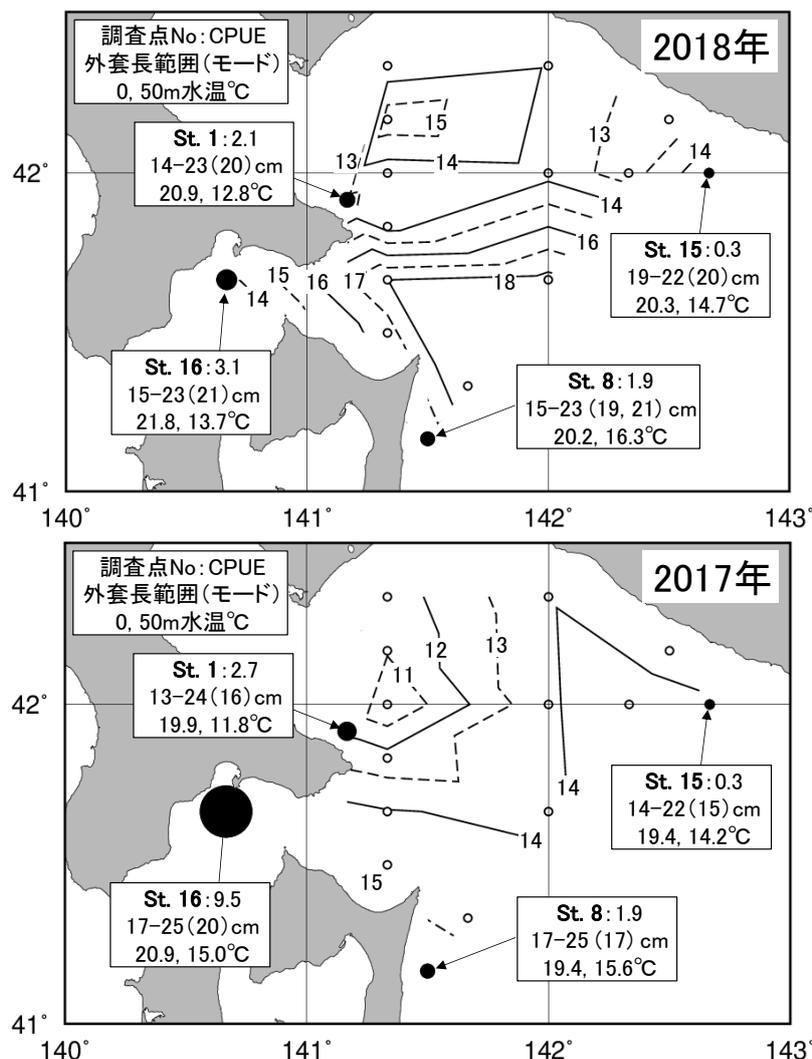


図1 スルメイカ漁獲調査結果。●は漁獲調査点で大きさはCPUEに比例(1以下は同じ大きさ)。○は海洋観測点。等温線は水深50mの水温(°C)。

漁獲調査点 4 点の表面水温は 20.2~21.8°C(昨年 19.4~20.9°C)、深度 50 m 層の水温は 12.8~16.3°C(昨年 11.8~15.6°C) でした。

調査海域全体の水深 50 m 層の水温に注目すると、津軽海峡東口沖に 18°C 以上の暖水渦が見られました。また昨年よりも 50 m 層の水温は高く、海域内の水温差も大きくなっていました。

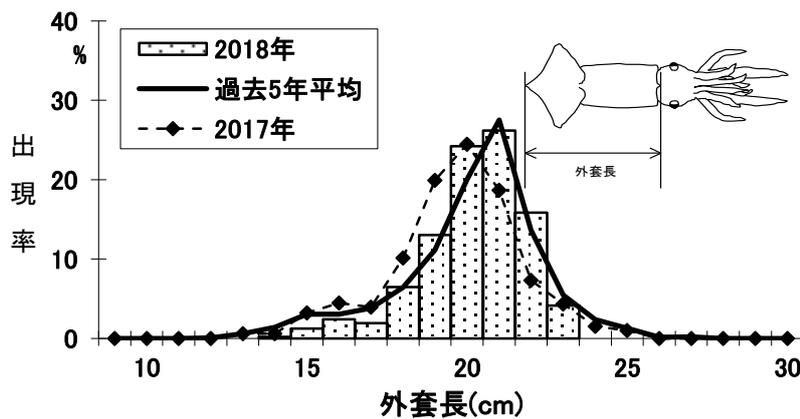
表 1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋 8 月）の CPUE と外套長の経年変化。2013 年の St.1, 8, 15 は釧路水試調査船北辰丸により実施。「過去 5 年」は 2013～2017 年の平均及び値の範囲

	2013 (H25) 8/21-8/24	2014 (H26) 8/18-8/22	2015 (H27) 8/19-8/21	2016 (H28) 8/24-8/26	2017 (H29) 8/21-8/25	2018 (H30) 8/20-8/24	過去5年
St. 1 (木直沖) CPUE	2.7	2.5	2.5	6.8	2.7	2.1	3.2
St. 8 (下北半島東沖) CPUE	3.1	7.2	15.7	-	1.9	1.9	6.0
St. 15 (浦河沖) CPUE	5.0	2.9	-	6.8	0.3	0.3	3.1
St. 16 (函館沖) CPUE	1.5	-	-	-	9.5	3.1	5.5
平均 CPUE (尾/(台・時))	3.1	4.2	9.1	6.8	3.6	1.9	4.4
外套長の範囲 (cm)	12-26	13-27	13-25	13-25	13-25	14-23	12-27
外套長モードの範囲 (cm)	21-22	21	21	18, 21	15-20	19-21	15-22

2. スルメイカの分布密度（図 1、表 1）

漁獲調査点 4 地点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は 0.3～3.1（昨年 4 地点 0.3～9.5）の範囲で、最も CPUE が高かったのは函館沖の St. 16（3.1）でした。漁獲調査を行った 4 地点の平均 CPUE は 1.9 で昨年の平均（3.6）及び過去 5 年の全 4 地点の平均（4.4）を下回りました。

3. スルメイカの大きさ（図 1、図 2、表 1）



スルメイカの外套長は 14～23 cm（昨年 13～25 cm）の範囲にありました（図 1、図 2、表 1）。最も多く出現したイカの大きさ（モード）は 21 cm で昨年（20 cm）よりもやや大きく、過去 5 年平均（21 cm）と同じ大きさでした（図 2）。

図 2 調査海域全体のスルメイカ外套長